

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成24年度 第2回伊達市社会教育委員会議		
議 題	平成25年度社会教育関係事業計画等		
開催日時	平成25年2月28日（月曜日）14時から15時30分まで		
場 所	伊達市役所第2庁舎2階第1会議室		
出席者	社会教育委員7名（欠席5名）、市教委7名		
	所管部課名	教育部生涯学習推進課	
公開 非公開 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

【会議概要】

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

■報告事項

【第1号 第32号北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告】

- 平成24年7月11日から12日まで開催された標記研修会の中で、7月12日の講演「子育て・家庭教育支援の現代的在り方」の内容を報告（下記に要点を記載）
 - ・人間は、ヒトという動物。ヒトの群れの経験をへて「人間」になる。
 - ・わが子の本質を知ることは難しい。
 - ・完璧な人間なんていない・・・未熟を認め助け合う
 - ・支援は、価値の押しつけではない。

【第2号 第52号北海道社会教育研究大会（胆振大会）兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会参加報告】

- 平成24年11月1日から2日まで開催された標記大会への参加委員5名による資料に基づいた報告。下記に要点を記載

①講話（11月1日）「全国社会教育連合に関する調査の結果について」

- ・全国社会教育連合という組織は、上からの働きかけではなく、地域から積み上げてきた組織であり、社会教育委員は、地域の課題を意識して活動することが大事である。
- ・社会教育委員は、全国的に60歳以上が多いが、10歳代の委員もいる。
- ・社会教育委員としての役割や会議の在り方が曖昧であるとの意見が全国的に多い。

②講演（11月1日）「セイコーマート会長によるセイコーマート設立から現在に至るまでの経過・経営者としての戦略等について」

- ・事業は形を変えていくもので、同じものを何年も継続していくものではない。
- ・人材育成も大事な事で、次の世代にどう伝えていくかが求められる。

③分科会（11月2日）

- ・分科会“シニア世代の社会”では、熟年者の知恵と経験を生かした地域づくりや高齢者の学習機会の充実・生きがい・社会貢献への取り組みをテーマとして、提言者（幕別町社会教育委員）の町の事業を基に議論した。
これらの取り組みをするにあたっては、集団行動への抵抗感をなくすことや、地域の中での教育部門や福祉部門のネットワークを繋げることが大事（課題）であるとの結論となった。

- ・分科会“家庭教育の充実”では、提言者（別海町社会教育委員）の町の事業を基に議論した。

平成18年より全国展開された「早寝・早起き・朝ごはん」を機に別海町内でもアンケートをとった結果、基本的な生活習慣の未定着が多く見受けられたため、それを基に対策を講じた結果、地域や家庭、学校に浸透し、徐々に生活習慣が改善されつつある。ただ、メディア機器の進歩により深夜までテレビゲームやパソコンをしている子どもが増えているため、自身でメディアコントロールの力を身に付ける事が重要。

いずれにしても、家庭教育は、地域・学校・家庭による「つながり」を創るところから始まるのではないかとの結論となった。

- ・分科会“青少年の育成”では、提言者（倶知安町社会教育委員）の町の取り組みを基に議論した。

テーマは、学校教育と社会教育の関わり方であり、社会教育委員が各事業により積極的に関わられるようにすることや教員が子供達へ働きかけること、学校教育と社会教育とが互いに補完し合うことが大切でありこれに学校や家庭を含め地域一体となった「学社融合」の取り組みが大事ではないかとの結論となった。

【第3号 平成25年度社会教育関係事業計画について】

（市教委担当者よりそれぞれ説明）

《意見、質疑・応答》 ※第3号議案のみ

【ボーイスカウト活動補助金について】

〔A委員〕

- ・ボーイスカウトは現在何名体制でどんな活動をしているのか？

〔市教委〕

- ・10数名で、屋外活動・屋外研修を行っている。

【市教委で購入した絵画の鑑賞について】

〔B委員〕

- ・これまで市教委で購入した絵画はどこに行けば鑑賞できるのか？

〔市教委〕

- ・噴火湾研究所に保管しているが、当研究所は見学施設ではないので突然の訪問には対応できないものの、事前に連絡いただければ職員立会の基鑑賞いただく事は可能である。また、カルチャーセンターの講堂等で市民等向けに展示会を開く機会もある。

【宮尾登美子記念館の入場者数について】

〔C委員〕

- ・当記念館への入館者数はどのくらいか？

〔市教委〕

- ・平成22年から24までの3カ年で、毎年平均で延6,000人程度である。

【だて歴史の杜公園内における施設案内について】

〔D委員〕

- ・当公園内にある施設同士の連携が図られていないように見受けられるが、市としては何か対策を講じているか？

〔市教委〕

- ・平成24年の夏頃から、当公園内における全施設の担当部署で協議をし、カルチャーセンター・総合体育館（生涯学習推進課）、図書館、宮尾登美子記念館（文化課）の他、道の駅（だて観光協会）も含めて、行事スケジュールをまとめて都市整備課へ提出し、市のホームページに掲載していることや、公園内の各施設において他施設の案内図を配置することで情報の共有化を図っている。また、公園内の案内掲示板もよりわかりやすいように都市整備課にて設置する予定である。

〔D委員〕

- ・案内掲示版は、観光用としても市民等の散策用としても活用できる様な生きた掲示版が芳しいと考える。

また、例えば総合体育館で大きなイベントがあった時に、バスが通路路肩に駐車したりと混雑しているが、そういった解消方法はあるのか？

〔市教委〕

- ・現在も公園内の相互施設で調整しながら駐車場所を確保しているが、今後は事前にイベント主催者側にも伝えるなどして、混雑を避けるよう検討したい。

4. その他

■事務局からの報告事項

- ・社会教育委員会議については、これまで市民の方々等に公開していなかったが、伊達市市民参加条例に基づき、今後は、会議については傍聴可能とし、次回会議日程や会議の結果等について、市HPを通じて一般公開していくこととする。

5. 閉 会